

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立神津小学校														
教育目標			心身ともに健康で 自ら学び共に生きる子どもの育成											
重点目標			◎確かな学力の育成(基礎基本と活用力) ◎健康で安全な生活の実践力育成(健康・安全・防災教育の推進) ◎開かれた学校づくりの推進(地域との連携 学校改善・情報発信)					◎一人一人を大切にした教育の推進(人権・特別支援教育の充実) ◎家庭教育の推進(読書活動、家庭学習の促進) ◎学校力向上への団結(業務改善、教職員の行動力、チーム力)						
重点項目			具体的施策		達成目標	自己評価	成果と課題		改善策	学校関係者評価		児童	保護者	教員
豊かな心・健やかな体	問題行動の未然防止	・問題行動を起こさせない。 きめ細やかな指導を行う。 ・早期の発見と対応に努める。	・居心地の良い学級作りをするためにクラスをオープンにし、日々の職員関係を円滑にする。 ・アンケートの実施		・問題行動を未然に防ぎ、発生件数0を継続する。	A	・問題行動発生件数は0だった。重大事案には至らなかった。しかし、「らくがき」や「いじめ事案」など、今後の動向が気になるため、引き続き指導を継続すべき。 ・いじめの早期発見ができ、重大事案に至らなかった。また、児童本人や家庭に対しても各担任の細かな対応もできた。		・小さな事案でも注視しておくこと。また、いじめ対応研修などを行い、問題行動の対応について、共通の意識を持っておく。 ・早期対応に応じられるよう、担任だけで抱えず、情報共有を徹底する。 ・問題行動が発生した場合でも、状況に応じたケース会議を開き、後の対応策を早めに練る。	・これまでの指導を継続されるとともに、児童理解に留意しながら、今後も地域・関係機関と連携することで、早期発見と情報共有に努められたい。				100%
	不登校への対応	・新たに不登校児童をつくらない。 ・不登校傾向児童への初期対応を充実させる。	・欠席、遅刻などの連絡が無い場合は、午前9時までに初期対応を行う。 ・家庭訪問の実施。 ・組織的に対応する。		・新たな不登校児童を0にする。 ・不登校傾向にある児童に対しては家庭訪問等を通じて登校刺激を与えていく。 ・職員間や支援機関と連携をとる。	A	・新たな不登校児は0だった。しかし、不登校傾向の児童は学年問わず存在した。 ・担任による家庭訪問や面談、各々の児童に合わせた対応で登校拒否を長期化させることはなかった。 ・SSWやケース会議、生活指導部会等で連携をとれた。親子関係のサポート体制もとれると良い。		・生活指導担当が学年や学団と協力して対応していく。 ・段階に応じたケース会議の実施や、養護教諭と連携した親子サポート体制をとる。	今後も安心して通える、学校・学級づくりを目指して引き続き取り組むとともに、現在行っている効果ある取り組みを継続して未然防止にも努められたい。				100%
	生活習慣の確立	・「早寝・早起き・朝ご飯」の推進 ・コロナ禍における新しい生活様式の推進 ・あいさつを大切にする	・生活習慣における課題を明確にした上で、それに合った生活習慣改善学習を充実させる。 ・コロナウィルス感染症の正しい知識を習得させる。 ・マスク着用、朝の健康観察、手洗いの徹底、三密回避等予防習慣を徹底する ・校内外問わず誰にでも挨拶できるように各クラスや集会で促す。		・大半の児童が朝食をとったと答えられる。 ・全ての児童がコロナに対する予防知識、意識が高まる ・児童アンケートで80%以上になるように目指す。	A	・98%の児童が朝食を摂取しており、正しい生活習慣の大切さを教えてもらっていると保護者95.5%児童87.4%答えている。 ・コロナへの感染予防ができていると100%答えている。 ・児童アンケートにて、あいさつをしっかりとっていることに関して「あてはまる」と回答した児童は84.7%だった。しかし、「自ら進んで」や「校内外問わず」あいさつができる子を今後も育てたい。		・継続して正しい生活習慣の大切さを伝え、また社会情勢に合わせて引き続き感染予防対策にも努めたい。 ・集会の時だけでなく、生活指導担当中心に呼びかけを行い、各担任からの指導も定期的にお願ひする。児童会と連携をし、あいさつ運動や日々の呼びかけで子どもの意識を高める。	・児童の特性や家庭環境を鑑みて、生活習慣の確立にむけ、保護者と協力して取り組まれたい。 ・コロナ感染防止対策と子どもたちの健全育成の両立に努められたい。 ・今後も継続して、あいさつ週間等、あいさつをする機会を設け、より啓発に努められたい。		85%	87%	99%

学力の向上	基礎基本の学力の定着	・基礎的、基本的な知識・技能の定着を図る。	・学年に応じたドリル学習やプリント学習を継続的に取り組む。 ・小学校の教育内容にとらわれず、子ども一人一人の就学前の経験にも着目し、必要な経験が積み重ねられるようにする。(基礎・基本の基盤) ・ことばの基本的なスキルと、論理についてのプリントを作成し、全校で継続して取り組む。	・子ども一人一人が自己の基礎・基本の定着を認識できる。 ・児童アンケートにおいて「計算や漢字、ことばの読み書きなど、基本的な力がついている」と答える児童が80%を超える。	B	「学習した内容がしっかり身についている」という質問に肯定的な回答をした児童は81%、保護者は92.5%となった。 基礎・基本を「漢字や計算など」ととらえると、ある程度の定着があるように感じる。 一方で、教員の感覚と、保護者の感覚に差があるようにも感じる。 81%という数値に満足せず、残り20%の子どもの基礎・基本の定着をめざしたい。	・家庭学習頑張り週間や、放課後学習の取り組みを継続する。 ・国語のプリントの取り組みを継続する。 ・家庭学習の習慣化に向けて、家庭へ協力を呼びかける。	今後もドリル学習やプリント学習を継続し、基礎基本の定着を基盤として、深い学びを授業に取り入れ、学力の向上を図るとともに、タブレットを活用した授業実践研究にもに努められたい。	81%	92%	100%
	学習習慣の確立と学習意欲の向上	・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・各学年の学習指導や放課後学習の取り組みを通して、家庭学習の習慣の確立を図る。家庭学習がんばり週間も、「学習」・「家読」・「げんきず」に、今後も保護者の協力を得ながら継続していく。	・家庭学習がんばり週間や各学年の取り組みをもとに、子どもは、熱心に家庭学習に取り組んでいると答える保護者が80%を超えている。	A	アンケート結果は81.5%と目標としていた80%を越すことができた。経年で見ても毎年、上昇傾向にある。今後も80%以上を達成できるよう継続していく。	今後も各クラスでの声かけや指導を繰り返すなど、家庭学習の定着の取り組みを継続するとともに、がんばり週間の取り組みも進めながら家庭学習の充実と意欲の向上を図っていききたい。 また、今後も放課後学習を継続し、家庭学習の仕方や意欲の向上につなげたい。	・保護者に家庭学習推進に向け協力依頼するとともに、地域とも連携した家庭学習とタブレットによるドリル学習の充実を図られ、今後も継続されたい。	65%	81%	83%
	授業力の向上	・日々の授業に教員の創意工夫を生かし、教員間で交流する。 ・子どもの相互作用を促す授業を実践する。	・こだわり授業交流会を通して、多様な教科の実践を計画・実践し、交流する。 ・全教員で取り組む授業研究として年7本と、研究発表として全学級公開の授業発表表に取り組む。 ・校内に限定せず、多様な研究会の知見をそれぞれの教員が授業実践に活かせるようにする。	・職員アンケートにおいて、「校内研修・授業研究会が自己の力量形成に有益に機能した」という肯定的回答が85%を超える。(授業を行う教員を対象として) ・児童アンケートにおいて、授業や学ぶことが楽しいという肯定的回答が80%を超える。	A	職員アンケートでは、肯定的な回答が94.7%であった。校内研修や授業研究会は一定の成果があったと考える。 「授業が楽しい」という質問に対する児童の肯定的な回答は81%であった。保護者の回答も84%と高く、授業デザインに対する教員の姿勢が評価につながっていると考ええる。 「創造的な授業実践」という研究の柱も子どもにとっての学ぶ楽しさにつながっているのではないだろうか。	・新しい研究テーマを立て、授業研究をすすめていく時期にきている。 ・これまでの研究の成果を生かしつつ、授業研究の質を深めていきたい。	・今後も地域と連携した計画的な研究推進を充実されるとともに教員研修の充実を図られたい。 ・全国学力調査の結果で学力のすべてを評価するのではなく、神津小学校らしさがあってもよいのではないか。「らしさ」が何なのかを教員、学校運営協議会で考え実践することが必要だと考える。	87%	89%	99%

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・学校ホームページや一斉メールを活用して、学校の教育方針や教育活動の情報発信に努める。 ・一斉メールを活用し、タイムリーに大切な情報を保護者へ発信する。 ・学校ホームページの充実を図り、学校情報、学年情報の提供に努める。	・一斉メールを随時配信する。 ・感染症や災害等、重大な情報についても迅速且つ丁寧に発信していく。 ・保護者や地域の方が、利用しやすいように学校ホームページの内容を充実させる。	A	・教職員アンケートにおいて、学校の連絡や出来事について、一斉メールを活用し必要に応じて保護者にきめ細やかに連絡していると肯定的に答えた教員は、84％であった。 ・学校ホームページでは、校内外の児童の生活の様子や地域連携の様子を継続的に月に数回配信できたが、より多くの職員が配信に携わることで 内容も充実すると考えられる。	・今後も学校ホームページや一斉メールを活用して、学校の教育方針や教育活動の情報発信に努め、ペーパーレス化にも取り組む。 ・感染症や災害等、重大な情報についても迅速且つ丁寧に発信していくとともに、全ての保護者に対してわかりやすく伝えられるように配慮していく。	・良好である。今後も発信方法を工夫しながら継続されたい。	96%	84%	
	家庭や地域との連携の推進	・保護者や地域と連携した教育活動を進めるとともに、地域行事へ積極的に参加する。 ・コロナ禍における新しい生活様式を踏まえながら、保護者や地域と連携して、感染防止に努める。	・コロナ禍における新しい生活様式について、保護者や地域の協力を得ながら、感染防止に努めていく。 ・地域と連携した学習活動を行うとともに、芝生化した運動場、緑化事業後の神津緑地の新たな活用方法を創出していく。 ・学力の向上等、学校の課題について、保護者や地域と連携して、方策を実行していく。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に留意した取り組みを進めるとともに、地域人材や施設を活用した学習機会を教育活動に取り入れる。	・各学年が年1回以上地域と連携した学習活動を行う。 ・芝生化した運動場や神津緑地を活用した学習活動や特別活動を実施する。 ・コロナ禍における新しい生活様式を踏まえ、保護者や地域と協力しながら、感染防止に努める。 ・地域人材を活用した学習を積極的に行う(年3回以上)。 ・CSを年6回実施する。(書面開催を含む) ・CSの中で学校の課題について検討し、連携する等、学校運営に積極的に参画する機会を増やす。	A	・教職員アンケートにおいて、学校活動に保護者や地域ボランティアを活用していると肯定的に95％が答えている。また、PTAや地域主催の行事に積極的に参加していると、95％肯定的に答えている。 ・交流センターやこども文化科学館、猪名川レンジャー、昆虫館、等、各学年で地域の方のご協力の下、学習活動を行うことができた。 ・芝生化した運動場での運動会演技、猪名川河川敷では、神津猪名川レンジャーとの連携による総合的な学習での活動等、地域人材を活用し、主体的な充実した学習に取り組めた。 ・CSや自治協議会との連携により、地域清掃活動等に取り組め、CSや研究発表会での意見交流を通して、学力向上や主体性の育成等、互いに教育に関する認識を深めることができた。	・今後も地域の方と連携を密にしながら、計画的に今後も教育活動を協働的に進めていく。 ・今後も保護者、地域と連携し、学校から迅速且つ丁寧に情報発信をしながら感染防止に努める。 ・今後も地域の方と連携しながら、地域資源を活用した学習を積極的に行う。 ・CSの中で学校の課題について検討し、連携する等、学校運営に積極的に参画する機会と体制づくりを行う。 ・今後も学校・保護者間の連携や学校からの配布物、アンケート等のデジタル化を進めペーパーレス化を進める。	今後も継続して、地域人材を活用されたい。 神津ならではの芝生や自然環境を活用し、地域連携を推進されたい。		95%
	デジタル化の推進	・学校における学習、業務のデジタル化を進める。	・学校と保護者間の連絡等についてデジタル化を継続して推進する。 ・学習においては、スクールタクトを使い、授業内で活用する。	・保護者からの欠席連絡や学校からの配布物、アンケート等のデジタル化を推進する。 ・各教科についての課題やふりかえりをスクールタクトにて行う。	B	・アンケート結果では、肯定的な意見が84.2％であり、欠席連絡、学校からの連絡、アンケート等を積極的にデジタルで行うことができた。 ・各学級スクールタクトを積極的に使用することができた。それに加え、ドリルパークも進めることができた。	・今後も継続して、保護者への連絡等はデジタル化を推進していく。今回のアンケートで否定的な意見が15.8％だったため、教員一人一人がデジタル化を推進していく。	継続して、デジタル化を推進し、情報発信に努められたい。	95%	91%

学校関係者評価総括

全般通して、コロナ感染防止対策を実施しながら、子どもたちにできる限りの学習機会と体験活動を実施されたことは、校長先生はじめ教員の先生方の努力であり、本年度、地域と連携した研究発表を実施できたことも、最大限評価できる。
学校運営協議会として、今後も子どもたちが神津で学んでよかったと思える学校づくりを学校とともに推進していきたい。そのためには教員の先生方とのなお一層の情報共有と学校支援をしていかなければならないと考える。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・授業づくりの推進(創意工夫の授業づくりと教員間の交流)
- ・学習環境づくりの推進(きれい、安全、安心な学習環境) をこのまま継続推進されたい。
- ・学校運営協議会は、地域に求めること、保護者に求めることを学校と連携し、具体的に提案し、地域総がかりで子どもたちの学習支援を行う。
- ・タブレットの活用について、今後も工夫し積極的に実施されるとともに、より深い学びに向け、努力されたい。